

# エリアウェーブ

「人権・地域・教育の課題としてのSDGs」～ジェンダー平等を中心に～

都留文科大学教養学部地域社会学科准教授 冨永 貴公 氏

掲載内容

- 峡地連「人権のための講演会」
- 峡東地域の教育活動/イベント等の紹介
- 峡東教育事務所からのお知らせ

令和5年1月15日 発行  
 峡東教育事務所  
 教育支援（地域教育担当）  
 電話 0553-20-2731  
 Fax 0553-20-2733

11月24日に甲州市民文化会館で行われた峡地連「人権のための講演会」からの抜粋です。

## 1.SDGsとは何か

- 2015年の国連サミットで「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」採択
- SDGs:2030年を期限とし、17の目標と169のターゲット、232の指標を掲げる持続可能な開発目標
- N:環境 E:経済 S:社会 W:個人の健康・幸福
- MDGs:2015年を期限として、8つの目標と60の指標からなるミレニアム開発目標（極度の貧困）
- ESD:持続可能な開発のための教育（2002年のヨハネスブルグサミットで日本が提案。国連決議）
- SD:先行したMDGsにおける経済開発主義を超える持続可能な開発（経済・社会・環境における人間の尊厳を守る開発）



冨永 貴公 氏  
 長崎県出身。神戸大学大学院博士課程修了。高齢者大学のコーディネーターや大学の研究員、男女共同参画関連施設の指導員、大学講師等をへて2016年4月に都留文科大学に着任。専門は社会教育学・生涯学習論、ジェンダー/セクシャリティ研究

## 2.SDGsと「ジェンダー平等」

- 日本社会における深刻な課題（最低評価）のひとつに「ジェンダー問題の解決」がある
- 2022年10月時点でのパートナーシップ導入自治体は240自治体（人口カバー率は55.3%）
- 甲州市では山梨県初のパートナーシップ制度が成立
- 国や地域の事情を踏まえて実体化する取り組みが必要

## 3.人権とジェンダー/セクシュアリティ平等

- 尊厳（dignity）：守ってもらう→守りあう
- 2022のジェンダーギャップ指数で日本は116位
- 日本では学歴と生涯賃金において、いずれの学歴でも顕著な男女差がみられる
- 山梨県では女子の大学進学率は全国有数なのに、男女格差は全国で1位・・・???（2021年春の大学進学率は男72.7%、女54.5%）
- 国際的には日本はジェンダー不平等が大きい
- 教育分野の機会は平等であるが、結果は不平等
- 社会的な達成に関わる教育は、地位としての尊厳にかかわる一大事

- セクシュアリティ：広義は性一般。狭義はSOGIE（性的指向 Sexual Orientation、性自認 Gender Identity、性表現 Gender Expression）
- LGBTQ+（現行のジェンダー不平等を背景とする性別二元と異性愛基準に対して、声を上げようとする当事者が選び取るアイデンティティ）
- セクシュアリティを攻撃した加害者がジェンダー不平等によって守られてしまう現実
- 他者と自身のセクシュアリティを「敬意の表現」としての尊厳の下で、どのように守りあうか

## 4.教育におけるジェンダー/セクシュアリティ

- 対象学生たちの振り返りによると、学校で性別を意識した経験は「クラス内の役割・名簿・体を使う作業・着替え・制服・校則」
- LGB T当事者の意識は3年前の調査と比べて「いじめ問題」と「職場環境」に大きな改善は見られず
- 当事者を取りまく環境としての学校の中で、当事者でない子どもたちも教員もどうしたらいいかわからず「良かれ」と思ってやったことが裏目に出る。

## 5.学校・家庭・地域における教育の人権課題としてのSDGs

- SDGsが突きつけるのは、利己的な私たちが利他的でありえるような基準とそのための仕組み・法制度作り
- まずは「ふつう」を問い直してみる
- 自分を知り「思いやる」ためのパートナーシップ制度
- 自己と他者への思いやりのための仕組みをめぐる学び
- 他社の生存・尊厳を奪うルールをめぐる学び。それを作り出すための学び

## 6.まとめ：わたしたちの尊厳を守り合うために

- 複数ありえる対応の中で「内在的な価値としての尊厳」「尊厳ある振る舞い、性格、態度としての尊厳」を育みながら、自分ではない誰かに対する「敬意の表現」としての尊厳を育むという戦後民主主義が保証した価値に立ち返ることが必要
- SDGsが突きつける「思いやり」を超える基準と仕組みづくりのための人権教育へ



甲州市民文化会館にて



**県立ろう学校「創立100周年記念式典・記念行事」 県立ろう学校・NPO 法人しゅわえもん**



木村校長から感謝状を贈呈

11月5日、県立ろう学校体育館において「創立100周年記念式典・記念行事」が行われました。記念式典には手島県教育長・高木山梨市長をはじめ多くの来賓が参列し、厳粛な中で式典が執り行われました。式典では学校運営に寄与された方々に、木村校長から感謝状が贈られました。

また、式典後に行われた記念行事はコロナ対策のため観客をろう学校の幼児・児童・生徒・職員のみが参加しました。記念行事では、絵本の読み聞かせ・クイズ・手話劇が行

われ、それを担当したのはNPO 法人しゅわえもんです。しゅわえもんは耳の聞こえない子どもたちや、その子どもたちに係わるすべての人たちが、様々な交流を通して活躍し、成長できるための場づくり・取り組みを行っているNPO 法人です。本年度からコミュニティスクールとして、新たな一歩を踏み出した県立ろう学校。今後も「地域とともにある学校」を目指すため、様々な取り組みが行われていきます。



NPO 法人「しゅわえもん」の手話劇



手話による絵本の読み聞かせ

**青少年健全育成推進甲州市民集会 青少年育成甲州市民会議・甲州市教育委員会**



市長から表彰状が授与されました

11月18日甲州市民文化会館において、令和4年度青少年健全育成推進甲州市民集会が行われました。本年度から新たに写真部門が創設され、ポスター・作文・標語・写真部門での入賞者の表彰と作文発表（3名）が行われました。家族を思う気持ちが伝わる作文発表は会場全員の心に染みこんでいく内容で、改めて身近にいる家族の大切さを認識することができました。また、山梨県教育庁から小澤哲也氏を招き、「子どものネット・ゲーム依存対策と情報モラル教育推進に向けて」をテーマに講演が行われました。

GIGA スクール構想も本格的に始動し、情報モラルを確立するためには、大人の情報リテラシー向上も急務であることが分かりました。ネットやゲームを正しくこわがり、かしく使うための4つの鍵は「①対象年齢の確認（発達段階に合わせた内容）②納得できるルール作りとフィルタリング（他律から自律へのサポート）③ルールを定着するために工夫する④保護者のスキルも高める（伝え方の工夫）」とのことです。家族で話し合ってみてはいかがでしょうか。



家族の笑顔があふれる作品たち

**防災・減災のために伝統をつなぐ ～大川倉横結操法～ 山梨市立日川小学校**



消防団による指導も受け継がれていく

増水時に堤防の決壊を防ぐ「聖牛・川倉」は戦国時代にさかのぼる伝統的な水防技術です。山梨市では川倉の名称で呼ばれ、現在も水防訓練等に活用されています。日川小学校では「日川地区少年水防隊」が結成され、その技術・消防精神等が受け継がれています。例年11月になると校庭で川倉操法の練習が始まります。はじめは完成までに40分以上の時間がかかり、組み立てた川倉も不安定な状態です。それが練習を重ねるごとにスピード・正確さが飛躍的に向上し、1月の出初め式の頃には15分かからずしっかりと組み上がるようになります。子供たちは、水害と戦い続けてきたこの地域に伝わる伝統を引き継いでいくことを、誇りに思いながら取り組んでいます。地域の特性を知り、それに対応できる力を身につけること。それは命を守ることに繋がります。『天災は忘れた頃にやってくる』科学者・随筆家である寺田寅彦（てらだ とらひこ）氏の言葉を忘れてはなりません。

※今年度創設された第1回「チャレンジ150山人会賞」で表彰されました。（県内で4団体が表彰されました）



子どもの成長の早さには目を見張る



## 「人を結ぶこれからの社会教育 ～語ろう 甲斐の国やまなしで～」

### 第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨県大会実行委員会等

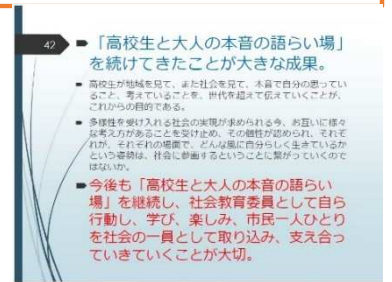


甲府商業による歓迎アトラクション



山本氏から塩山高校での実践事例を発表

11月10・11日に甲府市総合市民会館等において「第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨県大会」が行われました。県内外から社会教育委員をはじめ600人を超える方が参加し、「新たな生活環境の中で社会教育のあり方を考える～社会的包摂に向けた社会教育の果たす役割～」を研究主題に記念講演・シンポジウム・事例発表等が行われました。第5分科会では甲州市社会教育委員の会・議長の山本睦氏が「高校生の目を通して地域を考えよう～高校生と大人の本音の語らい場～」をテーマに塩山高校での実践事例を発表しました。(ファシリテーター役は11月の峡地連「人権のための講演会」講師 都留文科大学の富永貴公氏でした)。高校生が感じていることから、これからの地域や自分たちの生活に必要な事柄を考えることを目的にしているものでした。他の分科会でも白熱した議論が行われ、開催趣旨の「よっちゃばって 話をするじゃんけ」を体現できた2日間となりました。



発表スライドの「語らい場」

## 池田神明遺跡の発掘現場を見学 ～600年前に思いを寄せる～

### 笛吹市立石和西小学校・県観光文化部埋蔵文化財センター



発掘は地道な作業。繊細・丁寧が求められる

12月1日、石和西小学校の4・5・6年生を対象に「池田神明遺跡の発掘現場見学会」が行われました。この遺跡は新県状道路建設工事に先立つ発掘調査でみつきり、令和4年8月～令和5年3月に調査が行われます。調査の流れは「①遺跡で発掘 ②土器の洗浄・復元・データ分析など ③発掘調査報告書の執筆・刊行」となっています。遺跡名の由来は小字の池田と神明によるものですが、最近あまり使われていないとのこと。今回の発掘調査では約600年前の「かわらけ」と呼ばれる器・鍋・すり鉢など生活道具の他に、畑や田んぼの跡が見つかりました。また、地層からは洪水の被害を繰り返し受けていたこと、その度に畑や田んぼが作り直されていたことも分かりました。自然と向き合いながら生活を営んでいく難しさは、昔も今も変わらない。そのことを学んだ貴重な時間となりました。



600年前の生活はどんなものだったのか？

## 「昔の遊び」を通じて世代をつないでいく 甲州市立井尻小学校



竹とんぼ練習するたびに遠くに飛ぶようになる

12月5日、井尻小学校において1年生11名を対象に「昔の遊び」が行われました。当日は地域から8名の方が来校して、児童と一緒に昔ながらの遊び(メンコ・コマ回し・おはじき・ビー玉・お手玉・あやとり・けん玉・竹とんぼ)を楽しみました。始まりの会の中で校長先生からは「井尻小ではコロナ前は玄関横に今日使う遊び道具が置いてありました。実は昔の遊びではなく、今も続いている遊びなのです」とのお話がありました。児童たちはローテーションの時間が来るまで、熱中して遊びに興じます。1回ではできなくても一緒にやってくれるお手本役を真似ながら何回も繰り返します。そして、苦勞の末に成功したときの「できた!」という達成感と充実感。それは未知なることを知ろうとする「探究心」にもつながります。アナログだからこそ、感じる事ができる体験。そのことに改めて気づくことができた時間となりました。



けん玉は膝をうまく使うのがミソ。のったときの爽快感!



## 福祉講話・ブラインドサッカー 山梨市立山梨小学校・山梨市社会福祉協議会

山梨小学校では12月5日、福祉のこころ醸成事業として、3～6年生を対象に福祉講話を開催しました。前半の福祉講話は3・4年生が体育館において、5・6年生は教室にてリモート参加しました。講師には山梨ブラインドサッカークラブの栗木二仁（くりきにひと）氏をお招きしました。福祉講話の中では、栗木さんから日常生活の様子を話していただきました。便利な機器を使いながら、買い物をしたりパソコンを使ったりしているそうです。児童は明るさや色を音声で教えてくれる機器を興味深そうに自分の服につけて実際の音声を確認していました。



白い杖の説明をする栗木さん



声と拍手でドリブルする仲間を誘導

福祉講話に続き後半は、ブラインドサッカーの実技体験です。まず、アイマスクをつけて目が見えない仲間を目的のコーンに到着できるよう声や拍手で誘導しました。続けて栗木さんよりドリブルの説明があり、児童は順番にボールから出る音や仲間の声・拍手を頼りにドリブルをして、目的のコーンに到着することができました。実際の試合においてもガイドはとても大切だそうです。最後に、栗木さんより「相手の立場になって会話をする事。」「相手を傷つけるのではなく勇気づけることばを使ってほしい。」と、児童への熱いメッセージが送られました。児童は、お礼の言葉の中で「福祉講話で学んだことをこれからの生活に生かしてかしていきたいと思います。」と心を入れて栗木さんに伝えていました。

## 第58回笛吹市義務教育振興会議 笛吹市教育懇談会



石和南小学校での様子

12月3日に、笛吹市内各小中学校をオンラインでつなぎ、「合わせよう顔と顔、つなげよう心と心」～子どもたちの生活習慣を改善する連携した取組を通して～をテーマに、第58回笛吹市義務教育振興会議が開催されました。取組の柱として「①気持ちのよいあいさつをしよう②人の話をしっかりと聞こう③正しい言葉遣いをしよう④早寝、早起きをしよう⑤通信機器の使い方にルールを作ろう」が挙げられています。基調報告として、教育懇談会の組織・意義、現代社会の抱えている課題や今の子どもたちの実態や課題について(笛吹教育白書等のデータを活用して)、三者が連携した取組に向けての報告がありました。基調報告に続き、山梨県教育庁生涯学習課副主査の小澤哲也氏を講師に迎え「学校・家庭における情報モラル教育の推進に向けて」をテーマに基調講演が行われました。基調報告と基調講演を受けて、各校で今後の取組の在り方について話し合いが行われ、これから進めていく取組を明確にするための貴重な機会となりました。さらに、一宮・御坂・石和(2グループ)・八芦境・春日居ブロックでの交流も行われ、地域保護者・教職員及び教育行政担当者の教育関係三者が、それぞれの立場を尊重しながら互いに密接な連携を図り、笛吹市の子どもや地域社会のあるべき姿を求め、子どもを取り巻く今日的な教育問題について考えながら、充実とした会となりました。



浅川中学校での様子

### PDF版をご覧ください

『エリアウェッ』はPDFカラー版を峡東教育事務所のホームページに掲載中です。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、ホームページを開けます。是非ご覧ください。



エリアウェッ  
ホームページ

ホームページアドレス  
<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-hym/chiiki/backnumber.html>

### ご意見をお寄せください

『エリアウェッ』のご意見・ご感想・取材情報をスタッフ一同お待ちしております。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、メールでご連絡いただくか、表紙上部の連絡先にご連絡ください。



お問い合わせ

E-mail アドレス  
[kyoiku-hym@pref.yamanashi.lg.jp](mailto:kyoiku-hym@pref.yamanashi.lg.jp)



## 「笑顔で冬を楽しむじゃん in スマイルいちのみや」

社会福祉法人笛吹市社会福祉協議会



焼きいもは朝の6時から仕込み開始

12月18日に笛吹市一宮町で「笑顔で冬を楽しむじゃん in スマイルいちのみや」が行われました。笛吹市内のひとり親世帯を対象に令和2年度から長期休暇前に行われており、今回で8回目となります。今回は季節の食べ物（お餅・そば・みかんなど）の配布、やきいも&ポップコーン・お菓子バイキング・美容師による無料ヘアカットなどが行われました。やきいもは地域のおいしいちゃんおばあちゃんが朝6時から準備をしてくれ、ほくほくの甘さと温かさに来場



お手製のクリスマスツリーがお出迎え

者からは笑顔がこぼれました。ヘアカットを終えた子どもたちは、鏡に映った新たな自分の姿を見て満足げでした。（今回は甲府市から2名の美容師が協力してくれました）「親子の笑顔のために“いま”できること」を実践する取り組みである「笑顔で迎えるじゃん事業」は、今後も多くの人々の協力に支えられて行われていきます。

## Welcome to 勝沼ぶどう郷駅

～駅舎清掃ボランティア～

甲州市立菱山小学校・JR 東日本塩山駅



みんなで協力しての落ち葉清掃

12月2日に菱山小学校の3・4年生11名がJR勝沼ぶどう郷駅の清掃ボランティアを行いました。菱山地区の入口である駅舎の清掃作業を通じて、郷土愛や奉仕の心の育成と、地域で取り組んでいる「あいさつ運動」の実践を目的としています。この活動は「緑の少年少女隊」の活動として毎年実施されていますが、コロナウイルス感染症の影響で実施できない年もありました。本年度は6月に第1回を実施し、今回は2回目の活動となります。当日は、塩山駅の駅長様はじめ駅員さんもおいでいただき中で一緒になって落ち葉掃きを行いました。掃除の合間には、鉄道に関する話題提供もあり、



きれいになった駅舎においでください

駅の方々と触れ合いながら清掃活動に取り組みました。児童からは『駅に降りた方々がきれいな駅だねと言ってもらえるよう、一生懸命そうじをしました。きれいになりました』という感想があり、清々しく活動を終えることができました。今年、世界農業遺産にも認定された世界に誇れる美しい風景をつないでいくのは子供たちです。幼いころの小さな体験が種となり、それが行動につながっていく。積み重ねることの大切さがわかった冬の日となりました。

## 「ISAWA スマートサイクリスト」～命を守る三守（さんしゅ）の神器～

笛吹市立石和中学校



スローガンHBAの横断幕

山梨県では「山梨県自転車での安全で適正な利用の促進に関する条例の制定（令和2年10月）」、「自転車安全利用5則の改正（令和4年11月）」など、自転車の安全・マナー向上への取り組みが行われています。石和中学校では令和4年度から交通安全委員会の3年生を中心に、自転車の交通マナー向上のための運動「ISAWA スマートサイクリスト」が始まりました。活動のスローガンである『H（ヘルメット）B（ブレーキ）A（あごひも）命を守る三「守（しゅ）」の神器 ～あなたが握っているのはハンドル？いいえ命です～』の横断幕を校門と駐輪場へ掲示、美術部員による啓蒙ポスター作成、ロゴマーク作成などの活動を行っています。運動開始からしばらくたちますが、生徒の安全への意識が向上したこともあり、以前と比べて地域住民からの御寄附は激減しているとのことです。自転車は便利なツールですが、使い方を誤ると凶器にもなりかねません。「事故を起こさない・事故に遭わない」ためにも、運転者の安全意識の向上に向けた取り組みが今後も継続されていきます。



元気な挨拶から一日が始まる



笛吹警察署から委嘱されました



## 薬物乱用の「怖さ」について学ぶ

## ～薬物乱用防止教室～

笛吹市立御坂東小学校・笛吹ライオンズクラブ



薬物使用によって萎縮した脳の画像

よ」「みんなやってるよ」などの何気ない言葉からです。しかし、大麻や覚醒剤などの違法薬物を始めたら、その先にあるのは周囲も含めた破滅です。まずは薬物に関しての正しい知識をもち、甘い言葉をきっぱりと断る勇気をもつことが大切です。最後に参加者全員が「薬物乱用はダメ！ゼツタイ！」と唱和し、薬物乱用防止教室は終了となりました。

12月8日、御坂東小学校の児童21名を対象に「薬物乱用防止教室」が行われました。講師の鈴木慎二氏によると従来は中学校・高校で実施する機会が多いのですが、本年度は小学校からの依頼が3校あったそうです。要因としては薬物使用の増加・低年齢化が考えられます。はじめの会で校長先生から「自分の命をより良く守ること」の大切さが話され、DVD視聴・講師からの説明・質疑応答が行われました。

DVDや説明の中で繰り返されたのは「薬物乱用は自分の力だけでは直せない」ということ。きっかけは「気分がすっきりする



感謝の言葉と得た学びを伝える

## 「夢・ときめきサイエンスラボ」～テクノロジーとライフスタイルを軸に考えてみる～

甲州市立松里中学校・山梨大学生命環境学部



山梨ではメジャーな水力発電を体感する

12月14日に松里中学校体育館において「夢・ときめきサイエンスラボ」が行われました。講師として山梨大学生命環境学部から准教授の島崎洋一氏と大学生アシスタント2名を迎え、「発電と未来の家」について学習しました。はじめの会で校長先生からは「最先端の科学技術に触れ、科学について考える機会にしよう」との話がありましたが、生徒は楽しみながらも意欲的に発電体験やグループ討議に取り組んでいました。

前半は水力・火力・風力・太陽光による発電について、モデル機器を使いながら原理や特性を学びました。特に風力発電の体験では各学年の代表と職員の代表が約3分間全力でうちわを扇いで発電を行い、電力量を電動ミニカーで検証しました。（優勝チームにはソーラーバツカが贈呈）



まずは自分のアイデアを出してみる



全力で扇ぐと3分は長い。へトへトになります

後半はライフスタイルとテクノロジーを軸に4つのグループに分かれて、「家の未来」についての討議・発表を行いました。複雑化した現代社会においては、個々の意見を出し合いながら協力し試行錯誤する中で「最適解を作り出す力」が求められています。島崎氏からも「継続は力（エネルギー）なり」という言葉が伝えられ、改めてあきらめず続けていくことの大切さを知ることができた冬の日となりました。



## 峡東教育事務所からのお知らせ

- ◇11月24日の「人権のための講演会」をもって、本年度の講演会・セミナーはすべて終了となりました。令和5年度も魅力的な講師を招聘する予定ですので、ぜひご参加ください。
- ◇令和5年度の「山梨ことぶき勸学院(甲府教室)」の入学生募集を行います。2月1日(水)から甲府教室(甲府市東光寺2-25-1)で受付開始となります。※募集要項は峡東教育事務所にもあります。
- ◇「異校種間授業交流の実施状況調査」を年度末に実施する予定です。改めて依頼をさせていただきますので、お忙しい中ですがご協力をお願いいたします。※本年度はMicrosoft Formsを使用します。